

高崎北高校図書委員会
本のむし
 令和4年度第4号 2022年07月13日発行

夏休みを
 楽しもう!

読書感想文は、
 課題図書選びから始まっている。

課題図書

**第68回青少年読書感想文
 全国コンクール〈高等学校の部〉**
 紹介文は『SLA学校図書館速報版』第2100号より引用しています。課題図書コーナーはカウンター横にあります。

夏季休業中の開館日
 7/21~22、8/1~4・19・22~26日
 ※上記期間にも臨時閉館することがあります。ご了承ください。

〈開館時間〉 9:00~15:50

〈夏季特別貸出実施中!〉
 7/7(木)~8/31(水)は、
 10冊まで貸出しができます。

☆7/25(月)~7/29(金)☆
 蔵書点検のため 閉館 します。

『その扉をたたく音』瀬尾 まいこ・著(集英社)

老人ホーム「そよかぜ荘」でギターを弾き語りを頼まれた29歳の宮路は、会場で介護士の渡部のサクスを聞き心が動く。そんな宮路に入居者の「水木のばあさん」が「ぼんくら」と声をかけたことから、買い物やウクレレの指導などを頼まれるようになる。渡部と一緒に「そよかぜ荘」で念願の演奏会を開いた宮路。水木からは、「ぼんくらな息子へ」と題した愛情あふれる最期の手紙を受け取る。「そよかぜ荘」での体験をもとに、自立を決意して親からの仕送りを断る。

『建築家になりたい君へ』隈 研吾・著(河出書房新社)

東京オリンピック2020のメイン会場となった国立競技場をはじめ数々の建築を手がけた著者が、建築家をめざすきっかけとなった代々木競技場、夢のアフリカ調査旅行、初めての建築依頼、中国での初建築「竹の家」など自らの体験とともに、建築にとって重要なことを語っていく。それは建築にとどまらず、すべての人にとって生きていく上で、有効な要素を含む。時に偉大なる先達に対しても厳しい目を向けつつ、自らの信ずる道を進んできた著者だからこそその示唆に富む内容である。

書影なし

『クジラの骨と僕らの未来』中村 玄・著(理論社)

子どもの頃から生き物が大好きで、ショップで聞いたり図書館で調べたりして爬虫類などを飼育していた著者。中学では理科の教員に感化され試行錯誤で骨格標本をつくり、高校で大学の研究室の見学、アルゼンチンへの留学などを経験し、海洋大学への進学を決意。クジラ博士となるまでが語られる。クジラを追いかけて世界中の海を航海して研究に没頭する姿から、研究の奥深さとともに子どもの頃の探究心が成長とともに深化していく様子が伝わってくる。

※書影は「版元ドットコム」

**第55回
 夏休みの本 《緑陰図書》**

<p>『7.5グラムの奇跡』砥上裕将・著 (講談社)</p>	<p>『蛭と月の真ん中で』河邊徹・著 (ポプラ社)</p>	<p>書影なし</p> <p>『四角六面』エルノール・ベック 著 (光文社)</p>	<p>『ぼくたちのスープ運動』バン・デイヴィス 著 (評論社)</p>
<p>『13枚のピンぼけ写真』アキラ・カネコ 著 (光文社)</p>	<p>『難民に希望の光を一真の国際人緒方真子の生き方』中村恵・著 (平凡社)</p>	<p>『さばの缶づめ、宇宙へ行く』小阪康之ほか・著 (イーストプレス)</p>	<p>書影なし</p> <p>『海獣学者、クジラを解剖する。』田島木綿子・著 (山と溪谷社)</p>

全国学校図書館協議会の選定図書(高等学校の部)
 全国SLAでは、夏休み中に子どもたちにぜひ読んでほしい本として「夏休みの本」を発表しています。これらは緑陰図書としても親しまれてきており、「夏休みにどんな本を読んだらいいか」という声に、全国学校図書館協議会がこたえるものです。図書館にもあります。

相互貸借 あるある

このあいだ 図書館にない本をリクエストしたらねー

3日で 本がきたよ!

へえー

配達の木曜日だから、火曜までにリクエストを出すと最短2日で、届くんだって。

他館に本があれば早いんだね! 何の本をリクエストしたの?

『野菜を守れ!テントウムシ大作戦』

それは…やるね